

Kwansei Gakuin Symphony Orchestra
1913~2003



関西学院交響楽団

—— 第100回定期演奏会を記念して ——

(創部90周年記念資料)

Kwansei Gakuin Symphony Orchestra
1913~2003

——第100回定期演奏会を記念して——

関西学院交響楽団

(創部90周年記念資料)

清冽な希望の響きを！

関西学院交響楽団が戦後 100 回目の記念すべき演奏会をここ大阪ザ・シンフォニーホールで開催されることを心から喜び、お祝い申し上げます。

「カンオケ」の名で親しまれているわが関西学院交響楽団は、1913 年神戸原田の森キャンパスで誕生し、今年創立 90 周年を迎えるわが国学生オーケストラの名門です。これまでベートーヴェンの第 9 番、マーラー、ブルックナー、ショスタコーヴィッチ、ラフマニノフなどの大曲に挑み、ソビエト連邦共和国やオランダなど国外での演奏旅行でも高い評価を得ています。その特徴は原則として学生指揮者によって自分たちの音楽を創り上げ、演奏活動が続けていることですが、顧問の知道也文学部教授（現院長代理）が学生指揮者と共に舞台上に立ち指揮棒を振られる勇姿がまた独特の雰囲気醸し出します。

本日、ここで奏でられる清冽な希望の響きを讃え、学院創立者ランバース監督の言葉を引きます。「われわれは偏狭な信条 (creed) を超えて広い普遍性 (catholicity) の立場を志向する…今や人間の理性が真理と結合し、人間の精神が人類の幸福と共鳴し、人間の魂が神の意志と調和するような一大交響楽 (symphony) が全地に鳴り響く新しい時代が到来しつつある」。(W. R. Lambuth, The Cole Lectures)

学校法人関西学院理事長
関西学院院長
山内 一郎

関西学院交響楽団創部九十年並びに第百回記念定期演奏会の開催誠におめでとうございます。心からお喜びとお祝いを申し上げます。

母校関西学院は明治二十二年(1889 年)に開校されました。大正二年といえは未だ関西学院の揺籃期ともいえる時で、当時やっと学生諸団体の活躍が目立ち始めた歴史は記しております。その大正二年(1913 年)に創部されました関西学院交響楽団は古い歴史と伝統と共にいま将に輝いております。

その古い歴史の過程を振り返り当時幾多の苦難を乗り越えられた大先輩皆様方の血と涙と汗に染みついた楽器は今も皆さんの手で演奏されている様に思えてなりません。

九十年の歴史は血の一步一步の積み重ねから始まった輝ける関西学院交響楽団でございます。

母校関西学院、関西学院交響楽団共に永遠でございます。今こそ更に優れた歴史を積み重ねられます皆様こそ誠に幸運かと存じます。一層の発展と第百回記念定期演奏会のご成功をお祈り申し上げます。

関西学院同窓会会長

木村 正春

関西学院交響楽団の顧問として

大学の学生紛争もほぼ落ち着き、私の学長の任期も終わり、ホッとしていたころでした。畑 道也先生が来られて、このクラブの顧問になって欲しいと依頼されました。私は、体育会系のクラブの顧問はいろいろやりましたが、文化系クラブの顧問はやったことがありませんでした。それで躊躇していたら、畑先生が何もしてないんだから何とか引き受けて欲しいと言われました。それで何とかかと思ひ引き受ける事に致しました。

ところが、その後クラブのソ連への演奏旅行をしようという計画が急に持ち上がりました。当時のクラブは本当にまとまりもよく、OB会も積極的に支援するという事でこの話が、急に現実の話となりました。

特にご父兄の中にはご心配される方もおおいのではないかと思います、父兄会をひらきました。ところが、父兄方の中からも反対の意向はほとんど出ませんでした。ただ、責任者は誰ですか？という質問が出ました。責任者として私が同行します、とお答えしました。その上メンバーのほぼ半数が女子学生でありますので、私の家内も同行してもらいます、と申しあげましたらそれ以上の反対はでませんでした。私も、ソ連をまったく知らなかったのですが、ごく最近畑先生がソ連を旅行して来ておられました。その上、本当にソ連通の添乗員が同行してくれる予定でしたし、また招聘者がソ連の共産党の青年組織でありましたので、私もこの計画は大丈夫と判断しました。

さて、出発の当日は、羽田からのソ連の大型旅客機に乗る事になりました。ところが、その飛行機はかなり老朽した感じで、学生諸君はあちこちで椅子を修理し始めました。しかし、太陽があるうちにシベリアの大地をモスクワまで飛ぶ事は大変爽快なことでした。モスクワ飛行場には暮れ方に到着いたしました。簡単な税関検査を受けただけで、飛行場の外に出ました。そこにはバス 2 台とトラック 1 台(楽器用)が待っていてくれました。これを見たときに私もこの旅行は大丈夫だと確信が持てました。空港からミンスク行きの列車の終点まで送ってくれました。驚いたことには、バスの前をパトカーが先導してくれました。

ミンスクでの演奏を皮切りに、リガ、レニングラード、そしてモスクワまでの演奏旅行を無事終える事が出来ました。リガは神戸市との姉妹都市でしたので、神戸市長のメッセージをリガ市長に届けました。リガには世界一と言われる何千本のパイプを持ったパイプオルガンがありました。そこでの音楽会に招待してくれました。その時の曲がモーツァルトの「レクイエム」でした。場所が場所だけに、二重の感動を受けました。教会は全部何らかの集会場に使われておりましたので、その教会の中も客席も聖壇の方ではなく逆に後ろを向いて並べられておりました。

なお、ミンスクでの演奏会で学生諸君が舞台のそれぞれの椅子につき、そこで音合わせをやった時に笑い声が聞こえたので、不審に思っておりましたが、レニングラードでは本職のレニングラード・フィルハーモニーのベートーヴェンの「第 5 番」の演奏に招かれました。したら、団員がそろって指揮者が入って来ますと即ざに「ダダダダーン」と始まってしまったので驚きました。ソ連ではステージでの音あわせはしないのが一般的だったのです。

時期は 2 月末から 3 月初めというソ連では極寒の季節でしたのに、我々は気の合った温かいグループでしたので、旅行は物資の不足の中でも、常に温かく楽しい旅行となりましたのは、部員一人ひとりの心のやさしさの結果ではないかと思ひ、こういう体験が出来たことを心から感謝しております。

暫くすると私は、また学長に選出されてしまいました。私は学長は個々のクラブの責任者にはならない方がいいと思っておりましたので、この顧問も辞任する事にいたしました。しかし、その後もクラブのすばらしい定期演奏会をしばしば聞く機会が与えられましたことを大変ありがたく感謝いたしております。今後、ますます過去の経験を生かし、積極的なクラブ活動を続けられるよう願っております。

第 10 代関西学院院長・旧学長
関西学院大学名誉教授
関西学院交響楽団名誉顧問
小寺 武 四 郎

記念誌発刊のご挨拶

関西学院交響楽団は、この度、2003年1月25日、記念すべき第100回目の定期演奏会を“ザ・シンフォニーホール”にて開催することになりました。また同時に創部90周年の節目ともなりますので、この意味を込めてOB会として記念誌を発刊することに致しました。

顧みますれば関西学院交響楽団は戦前戦後の激動期の中をくぐり抜け、1951年5月5日大阪中之島・中央公会堂の第1回発表演奏会をかわきりに、50余年にわたる各年代の先輩たちの努力によって、遂にこの度の第100回定期演奏会を迎えることになったわけであります。

毎年開催しているOB会総会も既に第33回を迎えましたが、このOB会は各々の4年間の現役時代に先輩が3年、後輩が3年という謂わば鎖のような繋がりで結ばれた890有余名に達するOB会員によって組織され、関西学院同窓会からも認められた公認団体であります。

この記念誌発刊にあたりましては、山内一郎院長、小寺武四郎名誉顧問並びに畑道也先生はじめ多くの諸先輩、後輩、関係各位から貴重なメッセージや資料を提供して頂き、また編集については各委員の寝食を忘れての努力に敬意を表すると共に感謝申し上げる次第でございます。



関西学院交響楽団OB会会長
土井成見

健康で清潔な暮らしを創造する



オノヘイ製菓



Contents

100 regular concerts 1951~2003
定期演奏会 100 の物語 : 6
定期演奏会 100 回の作曲家・曲目ランキング : 21
100 の舞台に登場した指揮者たち : 22
non-regular concerts 1951~2003
国内コンサート : 28
海外遠征 : 30
current information of K.G. Symphony Orchestra
関西学院交響楽団の現状 : 35
団員名簿・役員名簿 : 36
foundation of the club & the concerts 1913~1951
ストリングバンドの誕生 : 38
演奏会の記録 (戦前の部) : 39
演奏会の記録 (戦後の部) : 44
start of OB society & the activities 1968~2002
OB会の発足と活動の記録 : 50
OB会の現役支援 : 54
OB会役員名簿 : 55
Messages from OB : 58
List of supporters & our thanks : 62
編集後記 : 63